

令和4年度中野区学力にかかわる調査の結果について

1 調査の趣旨

- 各学校において、自校の児童・生徒一人ひとりの学習状況や学年の傾向を踏まえて、教育課程や指導の改善・充実を図る。
- 調査の結果を基に児童・生徒が自身の学習上の課題を認識し、その後の学習に役立てる。
- 各教科の目標や内容に照らした学習の実施状況を把握し、区内小・中学校における教育課程の実施状況についての課題を明らかにして教育委員会の施策及び事業に生かす。

2 学習指導要領改訂に伴う観点等の変更

- 令和2年度の学習指導要領の改訂によって、小学校の評価の観点が、国語、算数ともに「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に変更されたため、令和3年度、本調査の小学校2年生から中学校1年生の評価の観点も3観点に変更した。令和3年度に中学校でも学習指導要領が全面実施となり、令和4年度に本調査の中学校2、3年生の評価の観点も「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に変更した。
- 令和3年度より社会と理科2教科の調査を実施しないこととした。
 ※これまでの調査実績を分析した結果、社会と理科の調査問題については知識・技能のみを問う傾向が強く、学習指導要領を踏まえた学習内容を測ることが難しいと判断した。

3 調査の実施概要

(1) 対象学年及び教科 ※ 調査範囲は前年度の学習範囲

学年	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
対象人数(人)	1786	1666	1683	1563	1509	1114	1032	1000
国語	○	○	○	○	○	○	○	○
算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	○
英語							○	○

(2) 実施方法 ペーパーテスト形式による調査

(3) 実施時期 令和4年4月11日～15日の中で1日

4 調査の方法・内容

- (1) 本調査では、学習指導要領の目標、内容の学習状況を把握するため、教科の観点ごとに問題を作成する。
- (2) 出題した学習内容や問題の形式、難易度等を考慮し、あらかじめ「おおむね満足である状況」を示す数値を「目標値」として設置した。この目標値に到達した児童・生徒の割合(達成率)を基に、学習状況を把握する。
 ※教育委員会は、達成率が70%であれば、区内の70%の児童・生徒が、「おおむね満足できる状況」にあることを示しており、全ての教科の全ての観点の達成率を70%以上にすることを目指している。
- (3) 学習指導要領の全面実施にともない、評価の観点が変更されたことから、項目数はこれまでの86項目から令和3年度は44項目、令和4年度からは36項目に変更となった(表1)。

【表1】各学年の評価の観点と項目数

観 点		小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	教科 と項目数
国語	「知識・技能」	○	○	○	○	○	○	○	○	16
	「思考・判断・表現」	○	○	○	○	○	○	○	○	
算数・ 数学	「知識・技能」	○	○	○	○	○	○	○	○	16
	「思考・判断・表現」	○	○	○	○	○	○	○	○	
英語	「知識・技能」	△	△	△	△	△	△	○	○	4
	「思考・判断・表現」	△	△	△	△	△	△	○	○	
評価項目数		4	4	4	4	4	4	6	6	36

※網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

5 調査結果の分析

(1) 目標値を達成した項目数の割合について

【表2】目標値に達した児童・生徒の割合が70%以上の項目数の経年比較

年 度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
項目数	48/86	62/86	36/44	20/36
目標値を達成した項目数の割合(%)	55.8	72.1	81.8	55.6%

(2) 観点ごとの達成率について

【表3】令和4年度 観点ごとの達成率

<国語>令和4年度 観点ごとの達成率

		話す・聞く力			書く力			読む力			言語についての知識・理解・技能			知識・技能		思考・判断・表現	
年度		H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	R3	R4	R3	R4
小学校	2年	72.0	75.5	△	55.6	57.0	△	59.4	71.1	△	80.8	86.2	△	80.5	80.6	65.9	69.1
	3年	71.1	84.4	△	66.9	78.2	△	74.9	83.3	△	84.7	84.8	△	73.3	▲72.7	66.9	70.4
	4年	61.7	70.4	△	64.7	73.6	△	68.4	75.2	△	69.4	77.0	△	71.9	▲69.3	61.0	63.2
	5年	71.5	77.8	△	76.3	80.3	△	81.2	85.5	△	72.2	69.8	△	70.1	▲69.1	67.9	▲67.7
	6年	73.1	76.3	△	81.2	85.1	△	68.5	72.2	△	79.0	78.5	△	78.7	▲76.7	71.7	▲69.2
中学校	1年	64.4	77.5	△	77.0	84.2	△	72.4	76.4	△	70.3	69.8	△	69.8	73.5	74.7	▲67.7
	2年	75.0	83.1	81.2	79.5	81.6	82.7	75.2	79.8	81.0	62.5	69.4	68.2	△	74.1	△	74.1
	3年	88.4	89.1	90.9	76.0	82.4	79.6	72.5	78.9	77.5	72.6	79.0	77.3	△	69.7	△	68.7

▲R4が、R3と比べて下がっている観点

<算数・数学> 令和4年度 観点ごとの達成率

		数学的な考え方			数量や図形についての技能			数量や図形についての知識・理解			知識・技能		思考・判断・表現	
		H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	R3	R4	R3	R4
小学校	2年生	75.7	82.6		86.0	91.3		81.6	86.8		88.4	88.4	78.1	78.9
	3年生	74.5	79.1		80.3	85.6		80.1	79.6		79.1	▲77.1	70.9	▲70.8
	4年生	78.2	74.7		79.1	80.6		83.4	84.2		82.3	▲79.6	65.0	66.3
	5年生	74.0	78.6		78.1	80.0		72.2	76.5		78.4	▲73.8	72.2	▲59.2
	6年生	75.9	74.8		76.7	73.8		76.4	75.4		77.1	▲74.3	72.6	▲70.4
中学校	1年生	68.4	71.2		71.8	76.1		72.0	71.4		71.5	▲70.0	71.9	▲69.9
	2年生	59.9	64.9	71.4	71.0	80.1	78.7	66.2	65.2	73.6		68.8		68.7
	3年生	71.2	69.0	68.0	74.7	79.3	77.0	68.4	70.5	70.6		73.2		71.6

▲R4が、R3と比べて下がっている観点

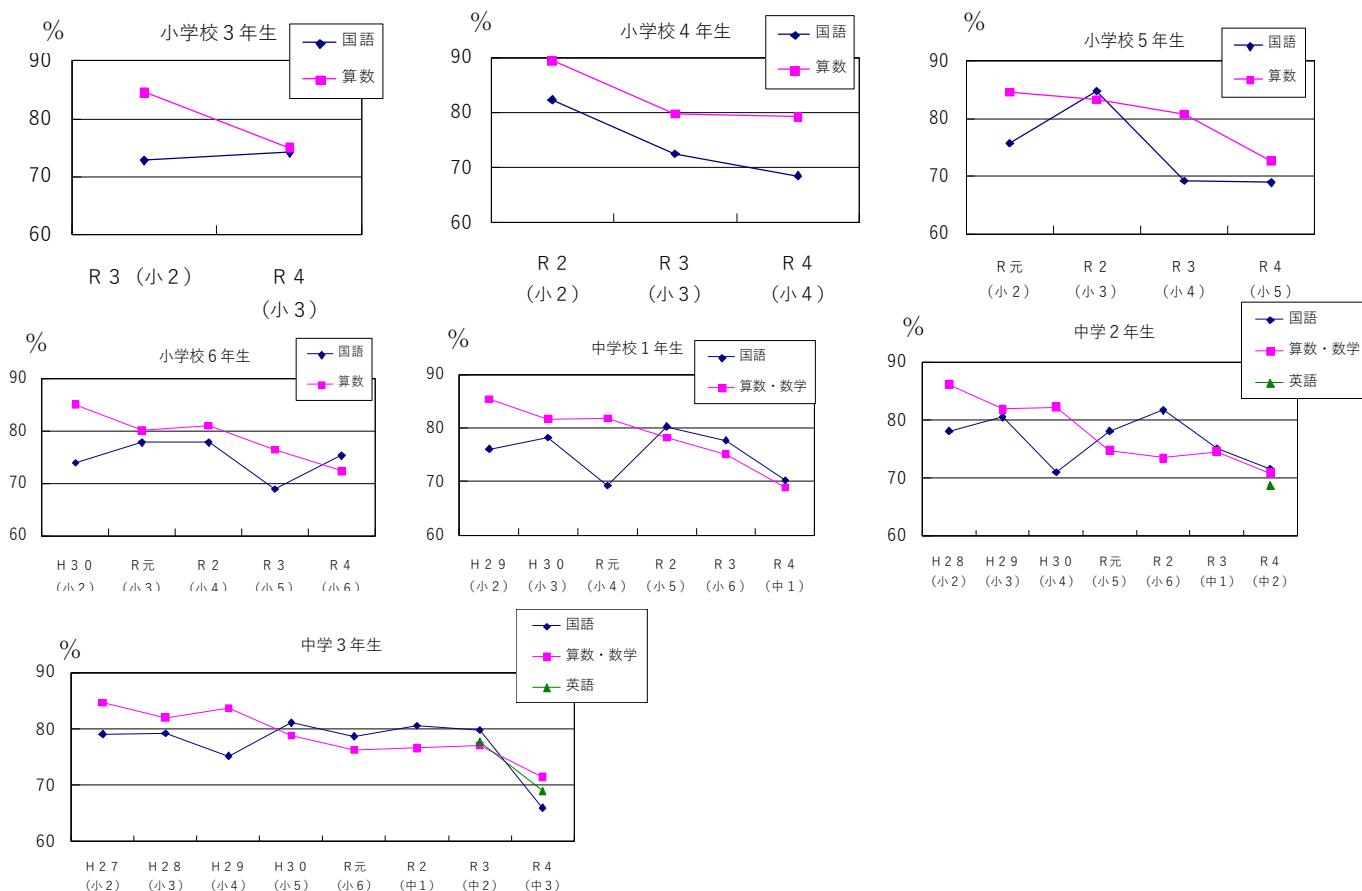
<英語> 令和4年度 観点ごとの達成率

		外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解			知識・技能	思考・判断・表現
		H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	R4	R4
中学校	2年生	67.7	77.5	74.9	69.8	80.0	77.1	67.7	75.7	75.0	75.3	58.3
	3年生	74.7	79.3	77.6	82.5	88.2	86.5	72.5	80.0	76.2	69.3	71.2

- ①教科ごとに見ると、国語は16項目中7項目、算数・数学は16項目中11項目、英語は4項目中2項目となった。このことから、算数・数学の「知識・技能」では、小・中学校の学習が定着していることが分かる。
- ②小・中学校ともに、「知識・技能」については、達成率70%を達成している学年や教科が多いが、「思考・判断・表現」については、小学校第4学年の国語、小学校第5学年の算数、中学校第2学年の英語で達成率が65%未満で低くなっている。
- ③記述形式の問題で、無解答率が高い傾向にある。特に、国語の目的にあった文章を書く問題と英語の資料や会話の内容に合った英文を書く問題で、無回答が多かった。

(3) 同一母集団の達成率の経年変化について

【図1】同一母集団の経年変化（達成率）



- ①国語については、小学校4年生時の達成率が下がり、小学校5年生から再び上昇する傾向がある。令和4年度は、特に「書くこと」に関する問題において、正答率が目標値より2～4ポイント低かった。小学校1，2年生から、相手や目的を意識し、伝えたいことを明確になるように、事柄の順序に沿って書き表す継続的な指導が必要である。
- ②算数・数学については、学年が進むとともに達成率が下がり続ける傾向がある。個々の学習状況に応じて、前学年までの学習内容に立ち戻って学び直しをしたり、反復学習等による補充的な指導を取り入れることによって、基礎的な学習内容の確実な定着をはかる必要がある。

(4) 令和4年度の「主体的に学習に取り組む態度」と他の観点との関連に注目した分析

	観 点	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
国語	「主体的に学習に取り組む態度」	○				○	○	○	
	「知識・技能」	80.6	72.7	69.3	69.1	76.7	73.5	74.1	69.7
	「思考・判断・表現」	69.1	70.4	63.2	67.7	69.2	67.7	74.1	68.7
算数・数学	「主体的に学習に取り組む態度」	○	○	○					
	「知識・技能」	88.4	77.1	79.6	73.8	74.3	70.0	68.8	73.2
	「思考・判断・表現」	78.9	70.8	66.3	59.2	70.4	69.9	68.7	71.6
英語	「主体的に学習に取り組む態度」								
	「知識・技能」							75.3	69.4
	「思考・判断・表現」							58.3	71.2

※網掛けは目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

◆結果

- ・国語の「主体的に学習に取り組む態度」は小学校3～5年生で達成率が70%未満と低いが、小学校6年生～中学校2年生で達成率が70%以上と高かった。
- ・算数は小学校2～4年生で達成率が70%以上と高いが、小学校5年生以上で70%未満となっている。
- ・英語は2学年とも達成率が70%未満であった。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」がともに達成率70%未満の学年・教科（小4国語、小5国語、中3国語、中2数学）に関しては、「主体的に学習に取り組む態度」も65%以下と低い数値になっている。

◆分析

①「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えている場合

○「知識・技能」

・国語

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えている4学年のうち、
⇒達成率70%以上…4学年（全学年）

・算数・数学

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えている3学年のうち
⇒達成率70%以上…3学年（現学年）

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が高い学年は、「知識・技能」も身に付いている傾向がある。

○「思考・判断・表現」

・国語

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えている4学年のうち

⇒達成率70%以上・・・1学年

⇒達成率70%未満・・・3学年（うち2学年が69%以上）

・算数・数学

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えている3学年のうち

⇒達成率70%以上・・・2学年

⇒達成率70%未満・・・1学年

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が高い学年・教科でも、「思考・判断・表現」の達成率が70%を超えていない学年・教科も多いが、達成率69%の学年も複数あり、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」関連については今後の結果も注視していく。

②「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%未満の場合の各観点の達成率

○「知識・技能」

・国語

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えていない4学年のうち

⇒達成率70%以上・・・1学年

⇒達成率70%未満・・・3学年

・算数・数学

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えていない5学年のうち

⇒達成率70%以上・・・2学年

⇒達成率70%未満・・・3学年

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%未満の場合、3分の2の学年・教科の「知識・技能」が達成率70%未満となっており、やはり「主体的に学習に取り組む態度」と「知識・技能」には、関連が高い結果となった。

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えていない4学年のうち

⇒達成率70%以上・・・1学年

⇒達成率70%未満・・・3学年

・算数・数学

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えていない5学年のうち

⇒達成率70%以上・・・2学年

⇒達成率70%未満・・・3学年

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%未満の場合、3分の2の学年・教科の「思考・判断・表現」が達成率70%未満となっており、「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が低い場合は、「思考・判断・表現」の達成率も低く、関連が高い結果となった。

6 今後の対応

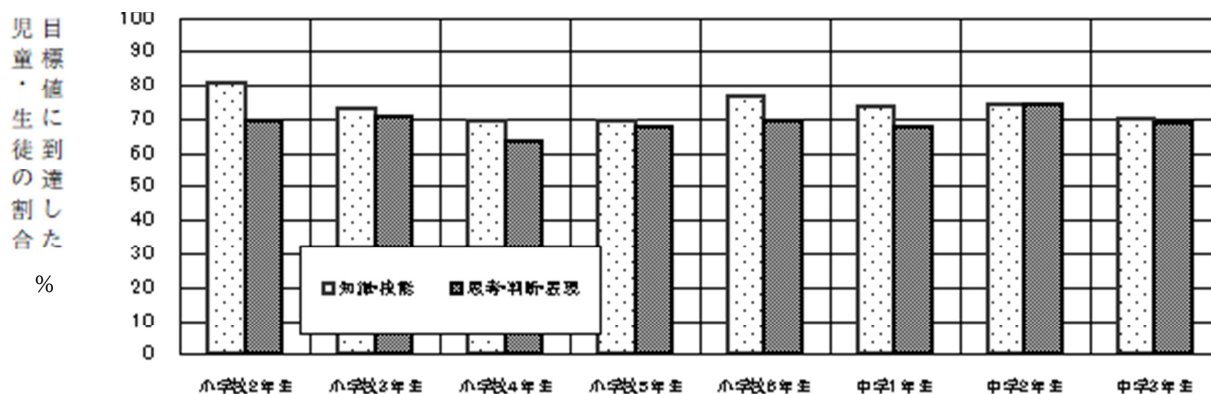
本調査は、全ての項目で目標値を達成することを目指しているが、昨年度に比べて、達成率が下がっている。今後は、「中野区基本計画」（令和3年9月）に示されているように、「誰一人取り残さない」という視点で、すべての児童・生徒が確かな学力を身に付けることができるよう、ICTを効果的に活用し、一人ひとりの学習状況に応じた個別最適な学習と協働的な学びを組み合わせた新しい学び方の実現を図るために以下の項目について着実に実行していく。

- (1) 課題となる学年、教科の学力の定着に向けて、教科担任制や習熟度別少人数指導の編制の工夫、任期付短時間勤務教員等を活用した指導方法や指導体制のさらなる充実を目指し、区全体の調査結果を周知し、指導・助言を行う。
- (2) 教員研修では、課題となる学年や教科の指導に関する内容が充実するように努める。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図るために、「主体的に学習に取り組む態度」を高めるための授業の工夫やICTの効果的な活用方法、問題解決学習の方法等について研修の内容を充実させる。
- (3) 今回の調査で、前学年までの学習の基礎・基本の定着を確実にすることも「主体的に学習に取り組む態度」を育てていくためには大切であることがわかった。特に「読むこと・書くこと」が困難な児童・生徒への支援については、音声読み上げやキーボード入力等を取り入れるなど合理的配慮が確実に受けられるよう校内の連携体制を強化していく。
- (4) 国語の目的にあった文章を書く問題と英語の資料や会話の内容に合った英文を書く問題で、無回答が多かったことについては、今後詳細な分析を進めていく。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響で学習活動が制限されている中で、ICTを積極的に活用して、発表場面を動画で撮影して視聴し合ったり、クラウドに保存したデータをクラスで共有して考察したりするなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進んでいる学校の取組を周知していく。
- (6) 各学校においては自校の結果についての分析を行い、児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にし、具体的な方策を検討した「授業改善プラン」を作成した。全教員が共通理解した上で、日々の授業改善を図ることができるように「授業改善プラン」に基づいた指導・助言を行う。
- (7) 区全体の調査結果を、中野区教育委員会ホームページ上で公開することで保護者や区民にも広く周知し、学校・地域・家庭が連携して学力向上に取り組めるような支援を行っていく。

7 調査結果

(1) 国語科

国語科観点別



【調査結果の分析】⇒「複数の情報を読み取り、自分の考えを表現する力及び日常生活に生かす力を育成する必要がある。」

◆結果

- ・知識・技能については、小学校2年生、3年生、6年生、中学校1年生、2年生において、目標値に到達した児童・生徒の割合が70%を超えている。また、70%を超えていない小学校4年生、5年生、中学校3年生も69%以上となっており、「知識・技能」の結果は良好である。
- ・「思考・判断・表現」については、小学校3年生と中学校2年生を除いて、70%を下回っており、思考力、判断力、表現力等について課題がある。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに70%以下となった、小学校4年生、5年生、中学校3年生は「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る結果となっている。
- ・領域別では、「言葉の特徴や使い方」「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、全学年が目標値を上回っている。

◆課題

- ・小学校では「書くこと」に関する問題については正答率が目標値を大きく下回っている小問が多く、条件に合うように文章を書くことに課題が見られる。
- ・中学校では学習指導要領に新設された「情報の扱い方に関する事項」に係る出題において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題が見られる。
- ・漢字や語句などの正答率が全体的に高く、漢字や言葉の定着や語彙が豊かになってきていることがうかがえるが、小学校高学年の漢字や主語と述語の定着に引き続き課題がある。
- ・国語の大切さを自覚し、国語に対する関心を高め、話したり聞いたり書いたり読んだりすることができるような授業改善を行うことが必要である。

年度	話す・聞く力			書く力			読む力			言語についての知識・理解・技能			知識・技能		思考・判断・表現	
	H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	R3	R4	R3	R4
小学校	2年	72.0	75.5	55.6	57.0	59.4	71.1	80.8	86.2	80.5	80.6	65.9	69.1			
	3年	71.1	84.4	66.9	78.2	74.9	83.3	84.7	84.8	73.3	72.7	66.9	70.4			
	4年	61.7	70.4	64.7	73.6	68.4	75.2	69.4	77.0	71.9	69.3	61.0	63.2			
	5年	71.5	77.8	76.3	80.3	81.2	85.5	72.2	69.8	70.1	69.1	67.9	67.7			
	6年	73.1	76.3	81.2	85.1	68.5	72.2	79.0	78.5	78.7	76.7	71.7	69.2			
中学校	1年	64.4	77.5	77.0	84.2	72.4	76.4	70.3	69.8	69.8	73.5	74.7	67.7			
	2年	75.0	83.1	81.2	79.5	81.6	82.7	75.2	79.8	81.0	62.5	69.4	68.2	74.1	74.1	
	3年	88.4	89.1	90.9	76.0	82.4	79.6	72.5	78.9	77.5	72.6	79.0	77.3	69.7	68.7	

※ 令和4年度より全学年の評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」に変更になっている。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

※ 太字・斜体は、令和3年度を上回ったものを示している。

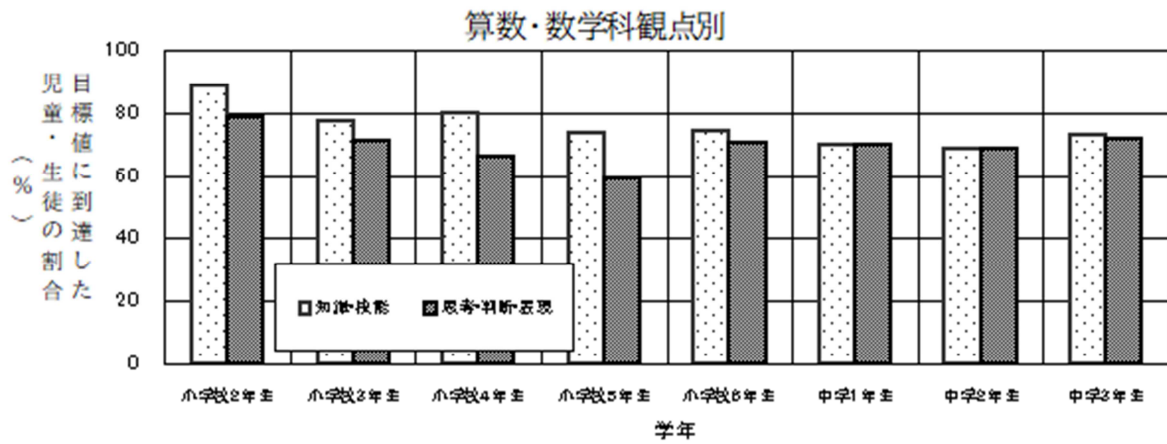
<課題となる小問>

学年	形式	観点	領域	出題のねらい	目標値	区正答率	
						今年度	前年度
小2	記述	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	書くこと	文を1文以上書いている	85.0	78.9	75.9
			書くこと	経験したことから書くことを見付け、文章を書いている	80.0	74.7	72.5
小3	記述	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	書くこと	指定された長さで文章を書いている	75.0	67.1	63.1
			書くこと	経験したことから書くことを見付け、文章を書いている	80.0	72.6	66.0
小4	選択	知識・技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	主語と述語について理解している	65.0	59.8	63.3
	記述	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	書くこと	自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書いている	40.0	35.0	37.8
小5	記述	思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	意見の共通点に着目して、考えをまとめている	40.0	34.9	32.6
	記述	知識・技能 思考・判断・表現	書くこと	段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている	60.0	53.9	57.9
小6	選択	思考・判断・表現	書くこと	文章全体の構成や書き表し方に着目して、文章を整えている	50.0	48.9	48.4
中1	選択	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	話すこと・聞くこと	意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をしている	50.0	46.7	
中2	短答	知識・技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	第1学年までに学習した漢字を正しく読んでいる	70.0	58.2	61.0
	短答	知識・技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	小学校で学習した漢字を正しく書いている	60.0	47.0	49.6
中3	短答	知識・技能	我が国の言語文化に関する事項	歴史的仮名遣いについて理解している	75.0	61.3	
	記述	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	書くこと	読み取った内容を明確にして書いている	60.0	49.2	

◆課題への対応

- ・「書くこと」については、小学校低学年から書くことに対する抵抗感をなくすよう、国語の時間に限らず、日頃から書く場面を設ける。また、書く目的をはっきりさせ、誰が読むのかという相手意識をもつように指導する。
- ・「情報の扱い方に関する事項」では、様々なテキストを読む力や、非連続型テキストを効果的に使用して文章を書く力を育成するため、情報を読み取り、それを基に自分の考えを表現する学習について工夫していく。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」では、中学校で古文に対して抵抗感が小さくなるよう、小学校からICT等を活用して昔話を聞いたり、短歌や俳句、親しみやすい古文を音読したりするなどの活動を通して言葉の響きやリズムに親しんだり、言葉の由来や変化について理解したりできるように小中学校が連携して系統的に指導する。
- ・「話すこと・聞くこと」では、話す際の工夫が様々あることを理解し、自分の考えを分かりやすく伝えるにはどのような工夫が効果的なのかを、聞き手の立場に立って考えることができるように指導する。
- ・「言葉の特徴や使い方」については、おまかせ教室等を活用して一人ひとりに合わせた個別学習を家庭学習と関連付けて進めたり、身に付けた文や文章の構成に関することを他教科の学習でも意図的・計画的に生かすなど、様々な場面で活用することで定着を図っていく。
- ・児童・生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、粘り強さを発揮してほしい内容と、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考えて授業を構想するなど、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善が進むよう、研修等で発信する。

(2) 算数・数学科



【調査結果の分析】⇒「計算の基礎・基本を生かし応用していく力を身に付ける必要がある。」

◆結果

- ・「知識・技能」では、中学2年生以外において、目標値に到達した児童・生徒の割合が70%を超えている。中学校2年生においては、68.8%と下回っている。
- ・「思考・判断・表現」では、小学校2年生、小学校3年生、小学校6年生、中学校3年生が目標値に到達した児童・生徒の割合が70%を超えた。小学校4年生、小学校5年生、中学校1年生、中学校2年生においては70%を下回った。特に小学校5年生は、59.2%と令和3年度を13ポイント下回る結果となっている。
- ・領域別を見ると、小学校においては「数と計算」「図形」「測定・変化と関係」が全学年で目標値を上回った。中学校においては全学年全ての領域で目標値を上回った。

年度		数学的な考え方			数量や図形についての技能			数量や図形についての知識・理解			知識・技能		思考・判断・表現	
		H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	R3	R4	R3	R4
小学校	2年生	75.7	82.6	/	86.0	91.3	/	81.6	86.8	/	88.4	88.4	78.1	78.9
	3年生	74.5	79.1	/	80.3	85.6	/	80.1	79.6	/	79.1	77.1	70.9	70.8
	4年生	78.2	74.7	/	79.1	80.6	/	83.4	84.2	/	82.3	79.6	65.0	66.3
	5年生	74.0	78.6	/	78.1	80.0	/	72.2	76.5	/	78.4	73.8	72.2	59.2
	6年生	75.9	74.8	/	76.7	73.8	/	76.4	75.4	/	77.1	74.3	72.6	70.4
中学校	1年生	68.4	71.2	/	71.8	76.1	/	72.0	71.4	/	71.5	70.0	71.9	69.9
	2年生	59.9	64.9	71.4	71.0	80.1	78.7	66.2	65.2	73.6	/	68.8	/	68.7
	3年生	71.2	69.0	68.0	74.7	79.3	77.0	68.4	70.5	70.6	/	73.2	/	71.6

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

※ 太字・斜体は、令和3年度を上回ったものを示している。

◆課題

- ・小学校6年生の割合の問題で、目標値25%のところ正答率22.7%と下回った。無解答が17.6%と高いため、まず百分率をしっかりと理解する必要がある。
- ・中学校においては、中学校1年生と中学校2年生で計算問題が目標値を下回った。中学校で学習したことだけではなく、小学校で学んだことをしっかりと定着させることに課題がある。
- ・「知識・技能」については、小学校2年生から小学校6年生において、ポイントが下がっている。基礎・基本となる問題を解く力を確実に身に付けていく必要がある。
- ・「思考・判断・表現」については、今年度も昨年度と同様に小学校4年生の達成率が70%未満となっている。小学校3年生の学習で、自分の考えを書いたり発表したりする力を身に付けていく必要がある。

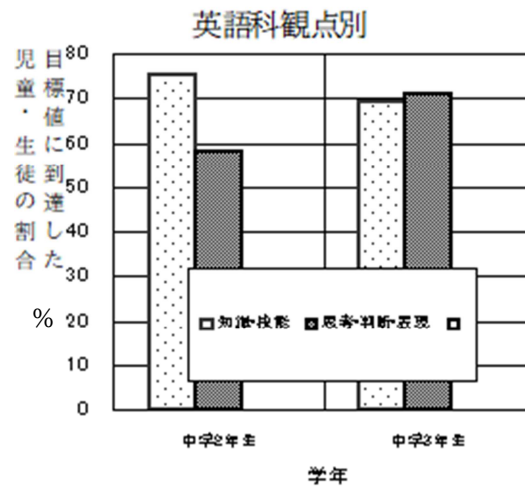
<課題となる小問>

学年	解答形式	観点	領域	出題のねらい	目標値	区正答率	
						今年度	昨年度
小2	短答	思考・判断・表現	数と計算	加法を適用して、順序数と集合数の文章問題を解いている。	85.0	75.5	77.2
小3	記述	思考・判断・表現	数と計算	場面を理解し、条件を満たす場合を考え、その理由を説明している。	30.0	40.0	38.7
	短答	知識・技能	測定	ものさしに示された長さを読み取ることができる。	80.0	72.4	71.2
小4	記述	思考・判断・表現	数と計算	2つの表で異なる数値に着目するなど工夫して、条件を満たす場合を考えている。	35.0	41.1	43.2
小5	記述	思考・判断・表現	数と計算	除数と余りの関係を説明している。	40.0	53.3	53.5
	短答	知識・技能	数と計算	数直線上に示された分数を読み取ることができる。	60.0	57.3	57.2
小6	記述	思考・判断・表現	変化と関係	百分率を理解し、代金を求めて比較している。	25.0	22.7	21.2
中1	短答	知識・技能	数と計算	小数第一位×少数第一位の計算ができる。	70.0	61.2	60.6
中2	短答	知識・技能	数と計算	負の分数と負の整数の大小を比較することができる。	60.0	53.0	62.2
中3	記述	思考・判断・表現	関数	2つの直線の傾きを読み取り、どちらのばねの方がよく伸びるかを説明することができる。	30.0	42.5	42.4

◆課題への対応

- ・「数と計算」では、「知識・技能」を確実に身に付けていくために、授業の初めにミニテストを行ったり、日々の学習で基礎・基本を繰り返し確認したりする。また、具体物や絵・図を用いて、数量関係の理解を深める授業の工夫をしていく。
また、全小・中学校で実施している習熟度別少人数指導において、児童・生徒一人ひとりの課題を把握し、個に応じた指導を充実させ、児童・生徒が自ら問題を解決しようとする意欲や能力を高める。
- ・「測定・変化と関係」では、子どもたちが使用する具体物の仕組みを理解させることが重要である。今回、小学校3年生の「ものさし」で言えば、目盛りを読み取る技能を高めさせることが大切である。「割合」については、身近な例を取り上げ、自分事として授業に参加できるように工夫をする。また、円グラフや棒グラフを使った学習に結び付けることも大事である。
- ・「関数」では、様々なパターンの多くの問題に触れさせ、関数的な見方や考え方と図形に対する直感的な見方や考えを養っていく。
- ・「データの活用領域」では、ICTを積極的に活用し、表やグラフなどのデータを分析したり、自分でグラフを作成したりする活動を取り入れた授業を展開し、互いの考え方を交流させながら統計的な見方を身に付けさせる。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」を育むため、問題解決の過程において、既習事項を活用したり、新たな問題場面を見いだしたり、日常生活に活用しようとしたりする児童・生徒の姿勢を評価していく。

(3) 英語科



【調査結果の分析】⇒「言語活動を繰り返す中で基礎的な学習内容の定着を図ることが必要である。」

◆結果

・観点別達成率

令和3年度から学習指導要領が全面実施となり、観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点になった。

中学校2年生「知識・技能」、3年生「思考・判断・表現」で、70%を上回っている。中学校2年生は「思考・判断・表現」が58.3%と低い。対話の流れに合った英文を正確に書く問題は、いずれも正答率が低く課題である。

・領域別達成率

「聞くこと」2年生 73.3%、3年生 72.4%（同一母集団経年比 6.1 ポイント減）

「読むこと」2年生 61.8%、3年生 66.8%（同一母集団経年比 10.3 ポイント増）

「書くこと」2年生 61.1%、3年生 61.6%（同一母集団経年比 6.2 ポイント増）

2年生については、「読むこと」の領域で達成率が70.0%を下回った。

3年生については、同一母集団の経年比較において、「聞くこと」で6.1ポイントの減少が見られる。「読むこと」「書くこと」では、大幅な上昇が見られる。

・2年生では、「言語や文化についての知識・理解」の観点において、「語形・語法を理解することができる。(一般動詞過去の疑問文)」及び「単語を正しく書くことができる。(春)」という問題の正答率が低かった。

・3年生では「言語や文化についての知識・理解」の観点において、「語形・語法を理解することができる。(動名詞の形)」また「外国語表現の能力」の観点において、「英語でたずねる文を書くことができる。(相手に車の値段をたずねる)」という問題の正答率が低かった。

◆課題

・「語形・語法を理解する」及び「単語を正しく書く」など基本的な知識・理解の定着が不十分な部分が見られる。

・「対話の流れに合った英文を正確に書く」など、目的に応じて簡単な表現や単語を用いて英文を記述する力が不十分な部分が見られる。

・小学校からの積み重ねの部分など基礎的・基本的な内容が定着しておらず英語を苦手とする傾向が見られる。

		外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解			知識・技能	思考・判断・表現
		年度	H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	R4
中学校	2年生	67.7	77.5	74.9	69.8	80.0	77.1	67.7	75.7	75.0	75.3	58.3
	3年生	74.7	79.3	77.6	82.5	88.2	86.5	72.5	80.0	76.2	69.4	71.2

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

<課題となる小問>

学年	解答形式	観点	領域	出題のねらい	目標値	正答率	
						今年度	昨年度
中2	選択	知識・技能	読むこと	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(一般動詞過去の疑問文)	45.0	37.4	45.5
中2	記述	思考・判断・表現	書くこと	対話の流れに合った英文を正確に書いている。(数をたずねる)	40.0	24.1	(42.1)
中2	記述	思考・判断・表現	書くこと	対話の流れに合った英文を正確に書いている。(場所をたずねる)	30.0	22.2	(30.1)
中3	選択	思考・判断・表現	聞くこと	日常的な話題についての英文を聞き、要点を捉えている。	60.0	61.1	(63.4)
中3	記述	知識・技能	書くこと	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(過去進行形)	60.0	49.2	67.3
中3	記述	思考・判断・表現	書くこと	対話の流れに合った英文を正確に書いている。(許可を求める)	30.0	39.3	(35.6)
中3	記述	思考・判断・表現	書くこと	対話の流れに合った英文を正確に書いている。(理由をたずねる)	25.0	47.3	(29.1)

※ 昨年度の正答率の欄の()の数値は、今年度の全国平均の数値であり、今年度から新しく設定した問題である。

◆課題への対応

- ・日々の授業において、コミュニケーション活動やスモールトーク等の言語活動の充実させ、基礎的な学習内容を抑えるとともに、重要表現の口頭練習を繰り返しさせるなど、日常的に繰り返し活用させる。
- ・文法導入が終わった後は、何回も口頭練習させ、ドリル問題等も合わせて使用して書くことによって、その表現が定着しているかを確認する。
- ・英文の要点を捉える力を養わせるために、教科書の適当な本文内容を用いて、本文で一番伝えたいことに下線を引かせる。
- ・リスニングにおいては、適切なメモ書きの仕方を教える。英文量が多く、内容が行き来することも多い内容では、メモを取る習慣を必ず身に付けさせる。メモは日本語でも英語でもよいが、時系列順に書いていく、数字や固有名詞、人名等は必ず書くようにする。
- ・小学校の外国語及び外国語活動と中学校の英語との連携を図り、小・中学校の教員同士が共通理解の基に指導を行うことで、相乗効果を生み出せるようにする。
- ・オールイングリッシュによる授業を実施するとともに、教師やALTの使用する英語が生徒にとって効果的なインプットとなるよう工夫する。
- ・一人一台端末やデジタル教科書を効果的に活用し、教師が生徒の学習状況を把握しやすくすることで、一人ひとりの習熟に応じた指導を実践する。